

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4098100011
法人名	社会福祉法人 朋寿会
事業所名	グループホーム第2 夢想園
所在地	福岡県八女郡黒木町大字土窪1832 (電話) 0943-42-1030

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成19年10月2日
評価確定日	平成19年11月20日

【情報提供票より】 (平成19年9月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 12月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成19年8月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.1 歳	最低	79 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	原医院、木下歯科医院、船小屋病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は田園地帯にあり、はるか四方は小高い山や木々の緑に囲まれ、周辺には季節の花が咲き誇っている。全居室は中庭に面して明るく、廊下やトイレは広いスペースが確保しており、浴室は家庭的で、使い勝手が良く工夫されている。運営者の高齢者福祉への情熱と想いが強く、地域への貢献に取り組まれている。その想いを管理者、職員はしっかり受け止め、利用者と家族のように明るく元気に日々過ごしている。開設して1年未満だが、家族との信頼関係が築かれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回は初めての外部評価である。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、まず全職員で分担して検討し、最終的に意見を集約して取り組んでいる。管理者は職員に評価の意義を伝え、全職員はこのことを理解しており、この機会をケアサービスの質の向上に繋がりたいとの意欲を持っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を開催して、利用者やサービスの実態を報告し、外部評価についても議題にあげている。委員から意見や要望、質問等をもらい、事業所便りを外部機関窓口配置するように取り組む等、意見をサービス向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	3ヶ月に1回、事業所便りを発行し、家族に手渡すか郵送している。心身状況の変化時等、緊急時には電話連絡している。行事のスナップ写真は事業所内に掲示し、個別にアルバムも作成している。金銭管理については、金銭出納帳を個々に作成し、月1回、報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入している。地域行事や他事業所の夏祭りに参加する等、地元の人々と交流することに努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔で健やかに、和やかに、私らしく生きる」「お互いを思いやり楽しく過ごす」という事業所独自の理念をつくりあげているが、地域密着型サービスの視点が加わっていない。	○	全職員で協議等を行い、これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの視点を加えた理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、利用者主体の理念を職員会議で話し合い確認し合って共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの視点を加えた事業所独自の理念をつくりあげて、それを全職員で共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでほしい。
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。地域行事や他事業所の夏祭りに参加する等、地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、まず全職員で分担して検討し、最終的に意見を集約して取り組んでいる。管理者は職員に評価の意義を伝え、全職員はこのことを理解しており、この機会をケアサービスの質の向上に繋げたいとの意欲を持っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催して、利用者やサービスの実際を報告し、外部評価についても議題にあげている。委員から意見や要望、質問等をもらい、事業所便りを外部機関窓口に配置するように取り組む等、意見をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政と密に連絡を取り、ケアに関して意見や指導を受けたり、事業所の取り組みや状況を報告する等、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は、制度に関して新任研修や外部研修を受講し、会議等で内部伝達をして、周知を図っている。パンフレットや申請書があり、利用者家族へ入居時に説明し、相談に応じている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に1回、事業所便りを発行し、家族に手渡すか郵送している。心身状況の変化時等、緊急時には電話連絡している。行事のスナップ写真は事業所内に掲示し、個別にアルバムも作成している。金銭管理については、金銭出納帳を個々に作成し、月1回、報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族来訪時に意見等を聴き出すよう、努めている。事業所及び外部機関の苦情相談窓口について、家族会等へ説明している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の異動が利用者にはダメージを与えることを理解しており、利用者一人に対して複数の職員が担当になる等、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにし、本人の意欲、向上心を重点においている。配置や昇進、教育訓練、定年、退職等においても差別はなく、誰もが安心して働ける職場環境を目指している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>全職員は人権に関する内部・外部研修に参加している。一部職員が外部研修を受講した際は、朝礼時や会議時に研修報告を行い、後日報告書を提出して、全職員の周知を図っている。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回、外部研修に参加し、また母体法人で研修をする等、内部・外部研修を受ける機会を確保するようローテーションに配慮している。研修受講後は他の職員へ内部伝達し、報告書や研修綴りがある。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者ネットワークに加入し、管理者及び職員は月1回、研修会に参加している。地域内の他のグループホームとの交流も図り、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前の見学や自宅等の訪問を行っている。やむをえず即利用になった場合は、本人や家族の要望等を聴きだすように努め、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう配慮している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、調理の下ごしらえ、らっきょう漬け、掃除等を利用者に習いながら共に行っている。書き物や踊り、謡、調理等、利用者の得意分野で力を発揮してもらったり、職員が利用者から労わってもらったり励ましてもらう場面がある。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で、一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。意思疎通の困難な利用者には、家族から情報を得るようにして、本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者及び家族の意向を聴き、職員の気づきや意見を含めて全職員で検討し、本人本位の計画を作成している。家族から了承した署名押印をもらっている。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回の見直しと毎月のモニタリングで確認し、また利用者の状態変化や状況に応じて、介護計画を見直している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者が入院した場合は、一日おきに見舞いに出向き、早期退院に向けて家族や医療機関と連携を図るよう努めている。本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族の希望にそったかかりつけ医や医療機関の受診を支援している。受診の方法や受診結果は、家族と連絡を取り合い、情報を共有している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針がある。入居時に、利用者や家族に事業所独自の説明書を作成し、説明している。本人、家族、かかりつけ医、職員の全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳とプライドを傷つけない言葉かけや対応をし、記録等の個人情報の取り扱いを行っている。管理者は日々の関わりについて点検し、利用者のプライバシーを損ねないよう努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、利用者一人ひとりのペースを大切に、希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と一緒に、調理の下ごしらえ等の準備や片付けを行っている。職員と利用者は同じテーブルで会話を楽しみながら同じ食事をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな入浴時間の設定はあるが、利用者の希望やペースで入浴を楽しめるよう支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の経験や知恵で調理の味見をしてもらったり漬物(高菜、梅干、らっきょう等)を習いながら一緒につけたり得意な習字を書いてもらったり、踊りや謡を披露してもらったりしてしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調や希望に応じて、毎日の散歩や週1回の買い物、その他イチゴ狩りや紫陽花観賞等、季節を感じる行事を織り交ぜながらドライブをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関は施錠していない。居室から中庭や戸外に出ることも出来る。鍵をかけないケアに取り組んでおり、現在は外出傾向する人はいない。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。防災訓練を年2回計画し、消防署の協力で1回終了している。非常用食料・備品の準備をしている。	○	今後はいざという時のために事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加や協力を得ながら、避難訓練等を実施してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全利用者分の栄養摂取量及び水分摂取量の記録がある。献立は、利用者の嗜好を考慮しながら、栄養士が作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの物を持ち込み、季節の花を飾る等、家庭的雰囲気配慮している。不快と感じる光や音はない。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に、仏壇、籐椅子、整理筆筒、時計、テレビ等、利用者の使い慣れた物を持ち込み、壁には家族写真を飾る等、本人が安心して居心地よく過ごせるような工夫をしている。全居室に洗面と押入れを設置している。		

※ は、重点項目。